

#### 第四節 気象災害

##### 気象災害年表

過去、香川県にもたらされた気象災害のうちで最も多いのは、台風による暴風雨である。災害に関する記録は藩政時代以降はほぼ完全に残されているが、現在までの約四〇〇年間に台風によ

財田に関連する気象災害年表

年号	西暦	記	事
大宝元	五六七	洪水	
天平宝字六	七〇一	六月旱魃、八月二日大風	
弘仁八	七六二	この年より三年間夏旱魃続く	
仁寿元	八一七	夏旱魃	
仁寿二	八五一	秋大雨、満濃の池など決壊	
仁寿三	八五二	春より旱魃	
万寿四	八八七	旱魃	
永元元	一〇二七	四月大雪(約一拵二〇篠)	
貞心元	一一三	旱魃	
寛喜元	一一三二	旱魃	
正平元	一一三〇	夏異常低温と降霜	
長祿元	一三六一	六月二日大雪(約三〇篠)	
天正元	一四六〇	旱魃	
承応元	一五七三	大風	
寛永三	一五七四	旱魃	
寛永五	一五七九	大雨洪水	
寛永七	一五八七	大雹降る	
寛永八	一六二六	四月七日大風雨、その後三か月間旱魃	
承応三	一六四三	四月下旬より六月まで旱魃、餓死者多数	
承応四	一六五四	夏旱魃(午の大旱)、秋大雨洪水、餓死者多数	

年号	西暦	記	事
寛文元	一六六一	大雹降る	
延宝元	一六八一	八月一六日大風洪水(辛酉の洪水)、水死者約一〇〇人	
元禄八	一六九五	大風洪水	
宝永七	一七一〇	六月・七月旱魃、八月数度の大風雨	
享保三	一七一八	五月四日霜降り異常低温、六月七月旱魃	
享保九	一七二四	二月三日暴風雨、四月雷雹、四月から七月まで旱魃、八月暴風雨	
寛保二	一七三二	夏長雨・強風	
延享元	一七四二	四月一日桜桃の大きさの雹降る、六月大風雨	
寛延二	一七四四	八月と九月に大雨洪水、一二月一日大雪の後異常低温	
宝曆七	一七四九	七月三日、大雨洪水、井関池の堤防大破する	
天明三	一七五七	六月から七月まで旱魃、七月二六日大風雨、民家数千戸倒壊、死者多数	
天明七	一七六六	一月大雪(約五〇篠)、六月から八月にかけて旱魃	
天明九	一七七〇	四月末より一六三日間大旱魃、稲の大半枯死	
天明元	一七七二	八月二〇日大風雨、倒壊家屋一万九千余戸、死者四六人(辰の洪水)	
天明三	一七八一	五月四日暴風雨、漂苗数千町歩	
寛政六	一七八三	暖冬・冷夏で作物のほとんどが結実せず	
寛政一	一七八六	五月から九月にかけて五度の暴風雨、九月財田川洪水	
享和二	一七九九	六月から八月まで旱魃、八月一九日暴風雨	
文政二	一八〇二	夏旱魃、財田中ノ村の被害大きい	
文政六	一八二三	五月から七月まで旱魃、一一万七〇〇〇町歩余の稲枯死	
文政二	一八二九	七月大風洪水、財田川筋の被害大きい	

年 号	西 曆	事 記
天保三	一八三二	六月から九月まで旱魃
嘉永三	一八五〇	夏長雨、九月二日大風洪水
万延元	一八六〇	五月大雨、夏長雨、七月一日大風洪水
慶応二	一八六六	八月一日から八日まで暴風雨（寅の洪水）
明治四	一八七一	五月一七・一八日暴風雨
明治七	一八七四	八月一九日強風、大雹降る
明治一六	一八八三	七月下旬より九月中旬まで旱魃
明治二二	一八八九	八月一八・一九日台風四国を縦断し暴風雨
明治二七	一八九四	四月二七日から九月一〇日まで大旱魃
明治二九	一八九六	八月末から九月一日まで数度の暴風雨
明治三二	一八九九	八月二八日台風三豊郡を通過
大正四〇	一九〇七	二月一〇日大雪（山間部六〇錢、平地三〇錢）
大正二	一九一三	夏三豊平野を中心に旱魃、被害面積四七四八畝
大正七	一九一八	八月二九日・九月一四日台風による暴風雨、死者・不明四七人
昭和六	一九三二	夏旱魃、降雨量平年の三三割
昭和九	一九三四	二月九・一〇日大雪（山間部五〇錢、平地三〇錢）
昭和一四	一九三九	五月から八月末まで旱魃、被害田二万七七畝、枯死田一〇一八畝、九月二一日室戸台風、死者・不明一七人、被害額五五八万円
昭和二〇	一九四五	前年一月より雨少なく夏大旱魃
昭和二五	一九五〇	九月一七・一八日枕崎台風、稲田一面に白穂となる
昭和二六	一九五一	七月から九月まで四回台風による暴風雨、県被害額一億二億円
昭和二八	一九五三	七月七日から一六日まで長雨・集中豪雨、県被害額二億六〇〇〇万円 七月二一日・三月二八日大雪、六月大雨



洪水犠牲者の供養塔(伊舎那院内)

年 号	西 曆	事 記
昭和二九	一九五四	九月二六日台風一五号（洞爺丸台風）、死者八名、県被害額四〇億円
昭和三六	一九六一	九月一五・一六日第二室戸台風
昭和三八	一九六三	五月・六月の長雨のため麦の被害八三億二一〇〇万円
昭和四一	一九六六	二月一五日大雪、県下の被害額五一億円
昭和四八	一九七三	七月から八月まで旱魃、県下の被害額九億七〇〇〇万円
昭和五〇	一九七五	八月一七日台風五号、八月二二日台風六号、町の被害額約二億円
昭和五四	一九七九	六月長雨、一〇月台風一六号・二〇号、町の土木災害約七〇〇〇万円
昭和五九	一九八四	一月三一日大雪、農業施設被害、西讃を中心に八億六〇〇〇万円
平成二元	一九九〇	五月一五日降雹、財田町を中心に葉タバコの被害六五畝・一億五七一一八万円 九月一八・一九日台風一九号、町被害額四億九八〇〇万円、長雨による米作不良

（参考資料）「讃岐国大日記」「高松藩記」「三豊郡史」「県気象災害誌」「財田村年表」「香川県史」

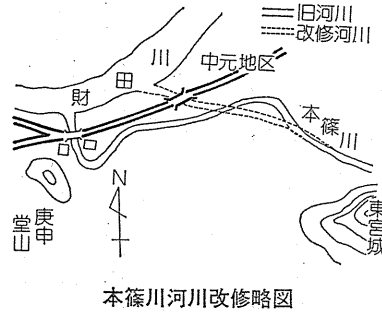
ると思われる暴風雨が、二二三回も香川県を襲っている。藩政時代の暴風雨としては、明和九（一七七二）年の「辰の洪水」、慶応二（一八六六）年の「寅の洪水」が財田川流域に最も大きい被害をもたらしている。

水 害

「財田村文化史」によれば、明和九（一七七二）年辰の洪水の時、財田中之村、長野の林平という者が妻子四人を失っている。また、大野地の大矢文

万三二〇〇戸の停電、電話の一部通話不能、アーケードの倒壊など様々な被害を出している。降電は大気不安定によるもので、時期によって農作物に被害を与えることがある。一番最近の降電は、平成元（一九八九）年五月十五日で、財田町を中心に碁石大の雹が降り、朝早田地区の葉タバコはほぼ全滅の惨状を呈した。県下の被害は財田町を中心に六五秒にわたり、一億五七一八万円の被害額となった。

財田町での降霜は一月から三月までが一般的であるが、時には四月・五月にも霜が降る時があり、これは遅霜と呼ばれる、かつては葉タバコなどの農作物に被害を与えた。しかし最近では、霜に対する保護対策が行き届くようになり、霜による大きな被害は出ていない。



本篠川河川改修略図

**本篠川の氾濫と改修**  
本篠川は東宮城の下からまっすぐに西流し旧村営住宅地でS状に曲がり、更に西流して申庚堂山麓で直角に折れ財田川に合流していた。川幅が狭く河床が浅いので、大雨時に堤防が決壊し被害が繰り返されていた。

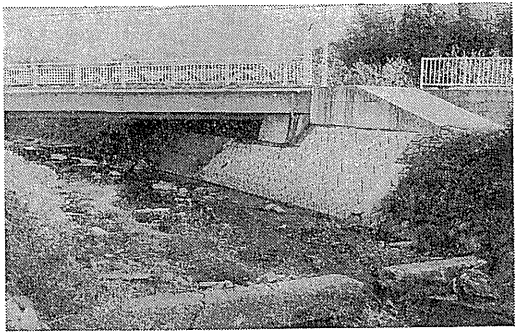
○過去の災害

- ・ 明治三〇（一九〇七）年七月二四日……未曾有の大水害で、大喜多宅（現在中元に居住の祖父の住居）は壊れ牛は水死し、付近の家も壊滅する災害があった。
- ・ 昭和一七（一九四二）年……大水による被害があった。
- ・ 昭和二〇年一〇月八日……家屋の一部流失や半壊、浸水家屋一〇戸、田畑の流失や土石流約三反余、浸水田三町歩に及ぶ被害が出た。
- ・ 昭和二二年秋……二年前の復旧直後に追打ちの災害を受けた。

- ・ 昭和二四年七月二四日……集中豪雨で堤防決壊、秋山高雄・秋山義晴・白川八十八・大西秀信の家屋の一部流失や半壊、一一戸が浸水、田畑流失約二反、土石流約一町歩、浸水田畑約三町二反に及んだ。

○改修（水路変更）

- ・ 度重なる水害で永住をおびやかされた住民は、大西豊村長・小野正信議長・大矢訶吉と協議し、河川改修の陳情を繰り返して、金子副知事の現地調査が行われて昭和二四年秋、三年の継続事業の実施が決定された。
- ・ 第一期工事……大矢建設の施工で秋山高雄宅より上流一三〇反、昭和二四年秋に着工し同年度に完工する。
- ・ 第二期工事……県の直営事業で二か年計画で施工。本篠新橋を含み秋山高雄宅前から財田川合流点までの区間一五〇反で、昭和二五年着工し同二六年度末完工する。



改修後の本篠川

た。地元世話人は白川正雄・片木長太郎・大西秀信・秋山義晴の四名であった。

○地元の負担

- ・ 改修に要する用地は地元が無償で提供する。
  - ・ 用地の代償として旧河川敷を無償で払い下げる。（昭和三五年ごろ有償の形で払下げを受ける結果となった。）
- 地元被害者の用地は提供面積と同面積で処理できたが、地区外所有者の土地については地元買上げとなり約六万円が必要であった。地元の負担が大きく、本篠地区の各戸に協力を願ひ応分の寄附を仰ぎながら数年がかりで整理することが

できた。

改修後四〇年を迎えたが、その後水害もなく安心して生活できることを喜ぶとともに、本篠川のおだやかな流れが、いつまでも続くことを祈ってやまないと地区の古老は語っていた。

(注) 県に資料がなく、当時の世話人、大西秀信の資料提供による。